

第 11 回 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会 議事要旨

開催日時	平成 30 年 12 月 19 日（水） 10:00～12:00
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5 階 大会議室
出席者	竹林委員、田中委員、鶴田委員、平井委員、布野委員、森下委員、○養父委員、渡部委員 計 8 名（欠席：岡田委員、高柳委員） （○：会長、敬称略、五十音順）
概 要：	<p>環境保全対策の評価手法、平成 30 年度調査結果（中間報告）について審議した。</p> <p>【資料 1】安威川ダム建設事業 スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 についての委員の主な発言は以下のとおり。 特になし <p>【資料 2】安威川ダム建設事業 環境保全対策の評価手法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 についての委員の主な発言は以下のとおり。 <p>竹林委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルをまわす周期は想定しているのか。 ・アクションの記載内容を統一して欲しい。 ・個別種のアクションについては保全対策がうまく行かなかった場合も想定すべきではないか。 ・ピオトープ③は干上がっているが、開放水面が増加しているのは何故か。 ・大岩川のゲンジボタルを個体数で評価するのは難しいのではないか。 <p>田中委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平水時の調査結果では濁水の影響を把握するには不十分である。出水時のデータを示して欲しい。 ・ダム事業以外の事業に起因する SS 負荷量を把握すべきである。 ・濁水対策については個別の対策施設の効果について証明する必要がある。 ・今年度答申する内容は。 <p>鶴田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジメドジョウが██████で増加している理由はなぜか。 →調査手法による誤差と考えられる。 <p>平井委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価欄の「-」は何を意味するのか。 →現在データがないため、評価できないの意味である。 ・オオムラサキは現状で減少していると想定されるので、速やかな保全対策が必要と考える。 <p>森下委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大岩川の最終目標の想定内容にある「洲の形成」は洲の固定化を想起させる。

渡部委員

- ・ 生息環境の物理的条件はどこまで調査するのか。

養父会長

- ・ 新たな保全対策が必要なものは速やかに検討すべき。
- ・ 本審議会資料は公開であるため、希少種保護の観点から非公表とすべきものを整理し各委員に確認をとる。
また、対策ごとのPDCA サイクル評価における、最終目標の審議会での取扱いについての考え方を示すこと。

【資料3】安威川ダム建設事業における平成30年度中間報告と取組みについて

- ・ 資料3についての委員の主な発言は以下のとおり。

鶴田委員

- ・ オオタカが抱卵を中止した理由は。
→原因不明である。

布野委員

- ・ 猛禽類について、今後は施行区域近傍で確認されるかモニタリングが必要である。確認された場合を想定した保全対策を検討しておく必要がある。
- ・ フクロウのアクションの記載については「モニタリング調査を実施する」だけでなく、具体的に記載して欲しい。

平井委員

- ・ フクロウの巣箱への今年度の台風の影響は把握しているか。
→巣箱③が掛かっている樹が倒伏した。
- ・ 新たに巣箱をかけることを検討する必要がある。